

水害の記憶を未来につなげる 『ステッカーツアー』運営

2018年度最終報告会発表資料

見てみようよ！常総市の会

【平成27年(2015年)9月豪雨災害】



鬼怒川の決壊で死者2人、3000戸以上が浸水

【常総市における被害のまとめ】

平成27年9月豪雨による水害被害
鬼怒川堤防決壊

- ① 人的被害 死亡2人 重症3人 中軽傷41人
- ② 住宅被害など
 - 全壊53件 大規模半壊1578件半壊3476件
 - 床上浸水148件
 - (全壊、大規模半壊、半壊に至らないもの)
 - 床下浸水3072件 停電約1万1300軒
 - 断水約1万1800軒

【団体の歩み】

- ・平成27年9月豪雨による水害被害 鬼怒川堤防決壊
- ・平成28年1月に、27年9月水害後に茨城NPOセンター・コモンズ 助け合いセンター JUNTOSが主催した、復興を考えるワークショップにてスタディツアー構想が市民から出され、その自主運営団体として「見てみようよ！常総市の会」立上げ。毎週1回の会議継続。
- ・平成28年3月、常総市市民協働課事業防災まちづくりフィールドワークと講座に協力、水海道中心地をフィールドワーク。
- ・平成28年5月、新潟県中越地震の後に構築された中越震災メモリアル回廊について学ぶ、長岡青年会議所との情報交換会実施（常総市にて）。
- ・平成28年8月、中越震災メモリアル回廊現地見学。
- ・平成28年9月、水海道地区において、地区防災に関するセミナー実施（東京都国分寺市高木町自治会長を講師招聘）。
- ・平成28年10月、水海道地区にて第一回ステッカーツアー実施（参加者20名）。
- ・平成28年11月、語り部にきく勉強会実施。
- ・平成29年1月 石下地区ツアー実施
- ・平成30年7月 根新田地区ツアー実施
- ・平成30年2月 橋本町地区ツアー実施
- ・平成30年7月 新井木地区ツアー実施

【活動の特徴】

2015年9月豪雨による水害被害の記憶を風化させない被災地域の取組として、

- ①水害体験の掘り起し
- ②語り部の発掘・育成
- ③街の各所における洪水高の記録表示（洪水水位高ステッカー表示）

を一体のプロセスとした「ステッカーツアーコース造成」「ツアー運営」を行う。



将来目標

ツアー運営の成果を活かして、「常総水害メモリアル廻廊」を地域内につくり、次世代に語り継ぐ仕組みを構築する。

【ステッカーツアーの構築プロセス】

1.区長宅訪問

2.現地下見

3.コース・マップ作り

4.チラシ作成

(5.語り部勉強会)

6.ステッカーツアー開催

【新井木ステッカーツアー】

常総水害から学ぶ 第5回「ステッカーツアー」

水海道・新井木町ツアー

ステッカーツアー <3つのねらい>

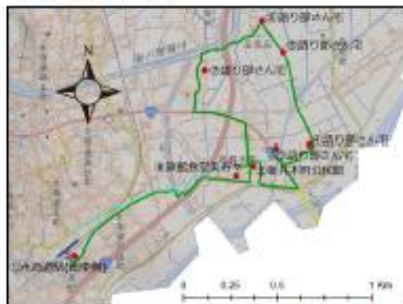
- ① 2013年9月13日の関東東北豪雨による水害の記録を忘れない
→ 浸水水位のステッカーを貼る
- ② 常総市の水害の記憶を継承する → 語り部のお話を聴く
- ③ 商店街や地域の賑わいにつなげる → 常総で昼食を食べてお土産を買う

2018年
7月8日(日)
開催



●参加協力費
【一般】 2,000円
【学生】 1,000円

●今回のコース



(地理院地図より作成)

●7月8日(日)ステッカーツアー <プログラム>

- 【9:30】 水海道駅(関東鉄道常総線) 集合
- 【9:45】 出発
- 【10:00】 新井木町和会館(オリエンテーション)
→ 町内で語り部の方のお話を聴く
- 【12:10】 昼食「美寿々」(モリそば、卵焼き、吹き込みご飯 → 約1,000円)
- 【13:20】 新井木町和会館(ふりかえりとまとめ)
- 【14:30】 解散(水海道駅周辺でお土産などの買い物)

ツアーが開催されるごとに
関係者や住民の方、参加
希望者に対してチラシを作成

見てみようよ! 常総市の会

●連絡先 juntos@npocommons.org (岡野)

【新井木地区ステッカーツアー】

・平成30年7月8日（日）

・参加人数17名

コース

水海道駅



新井木町会会館



5人の語り部のお宅



水害から復興した（再建した）飲食店で昼食



新井木町会会館 でふりかえり

【ツアーの様子】



水海道駅でのオリエンテーション。
西日本出豪雨災害があった直後だけに
メンバーは本日開催意義を再確認する。



鬼怒川・小貝川を結ぶ八軒堀川。鬼怒川破堤の前にこの川があふれた。



町会会館で区長ほかに本日の
行程を再説明。





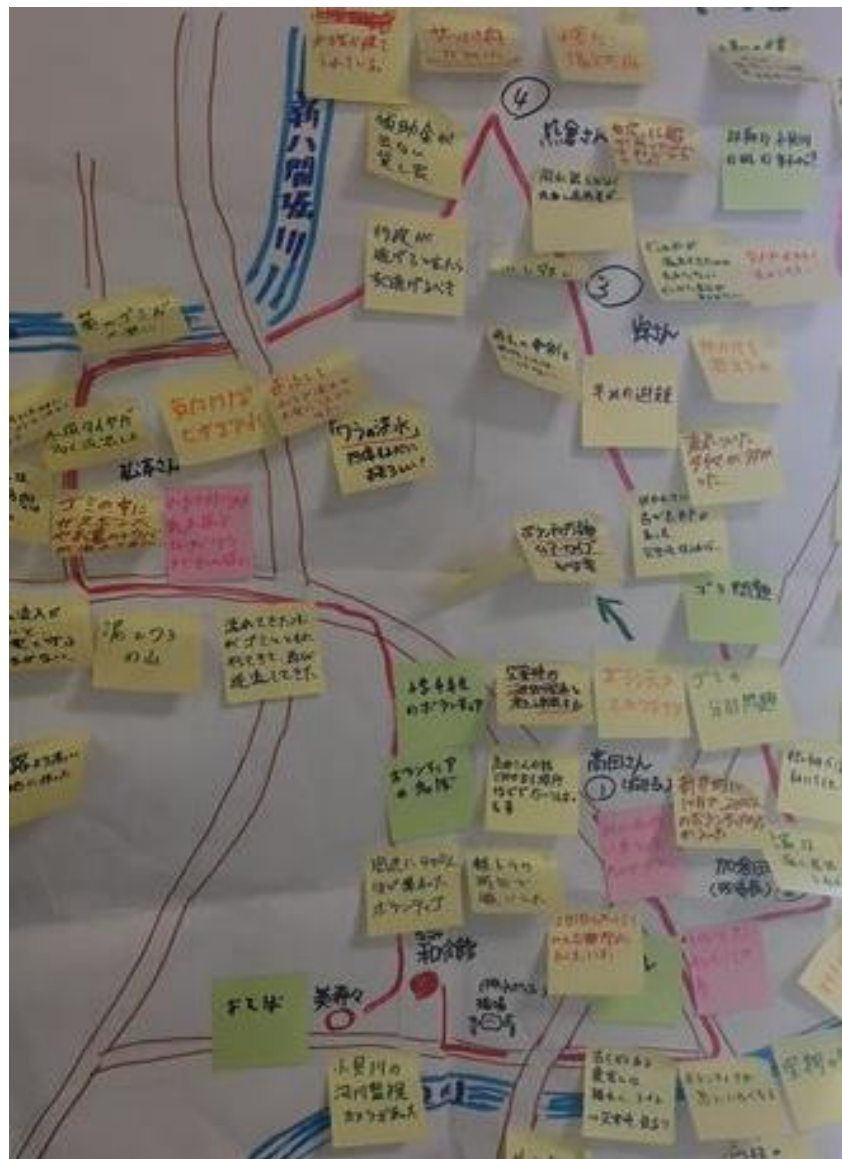
第一の語り部を訪問。



第四の語り部宅。かつてこの地域で舟が使われており、水とともに暮らしていた地域であるといえる。
避難に対する油断や、行政の問題点などお話を伺うことができた。



第五の語り部宅では、流れの強い水が頭より高い位置まで来た。水が引くのが遅く、3日間は掛かったとおっしゃっていた。



振り返りでまとめられた模造紙の様子。¹⁵

【本ステッカーツアーの成果】

- 水害が襲来した地域の生活文化について学ぶことができた。
- 住民の方と社会人、学生とのつながりを深め、今後の運営に活かす方法を学べた。
- 「常総水害メモリアル廻廊」に向けて、次世代に語り継ぐために必要なしくみを学んだ。

【常総自転車ツアー11/17】

- ・ 今までの水害の地域を見て回るだけでなく新しいタイプのツアーを造成。
- ・ 徒歩だけではなく自転車ツアーを行う。
- ・ 広く廻ることで、常総市の地形を体感し、地形と水害の関係を学ぶことができる。

11/17
(土)

常総市の地形や成り立ちを知ろう 小貝川-鬼怒川自転車ツアー



災害はいつ、どこで起きてもお不思議ではない！

日本列島は再び大きな災害のサイクルに入ったのかもよ！と。西日本水害では、5年前に常総で起きた大水害による被害が繰り返されました。わたしたちは今こそ過去の事例や地域の経験から学びが必要となります。

「小貝川」や「水海道市史」を基に水害の記憶がくちまみ出てきます。小貝川と鬼怒川という河川に鑑みにつくられたまちの地理・地形やまちの成り立ちの歴史を学ぶことは、この地域が生み出している未来の大きな役に立つことでしょう。他の地域の人もよって大きな学びになります。

11月17日の楽しい自転車ツアーにぜひ参加ください！(自転車は用意しますが持参可能な方はお持ちください。)

えう！ ご期待

12月より伊勢塚田は橋！
大地と水の恵みを考える
講座

<11/17 ツアーのコース>

- 10:00 水海道駅集合/オリエンテーション
- 10:15 スタート
- 10:30 小貝川サイクリングロード
- 11:00 大生(おおの)公民館
・公民館祭に参加、住民と交流
- 11:30 公民館旁(水海道市街地で昼食)
- 13:00 水海道自転車街
- 13:15 鬼怒川サイクリングロード
- 14:00 増本町会館(振り返り、まとめ)
- 15:00 解散(一括土産など買い物へ)
(小雨決行、荒天中止、申込者に連絡します)

参加費●2000円(保険料、ドリンク料、活動協力費など、常総物産品38円(税込))
申し込み締め切り●11月14日(水)まで
問い合わせ先●

E-mail: tsukano@postcrossing.org
TEL:050-1395-9444 携帯

見てみようよ！常総市の会

【自転車ツアーの行程】

- 10:00 水海道駅集合/オリエンテーション
- 10:15 スタート
- 10:30 小貝川サイクリングロード
- 11:00 大生(おおの)公民館
 - ・公民館祭に参加、住民と交流
- 11:30 公民館発(水海道市街地で昼食)
- 13:00 水海道倉庫街
- 13:15 鬼怒川サイクリングロード
- 14:00 橋本町会館(振り返り、まとめ)
- 15:00 解散(→お土産など買い物へ)

【自転車ツアーの様子】





水海道駅に集合し、
出発



移動中

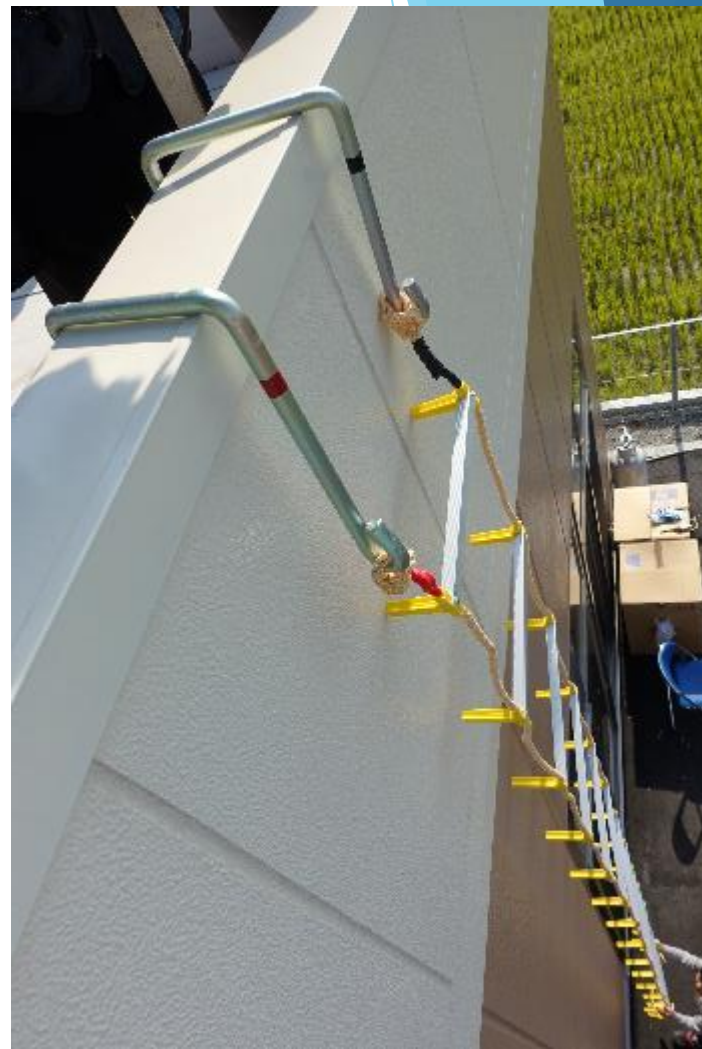




途中途中で解説



大生(おおの)公民館に立ち寄り、話を伺う（どこまで浸水があったか等）



公民館で炊き出し料理で昼食をごちそうになる



市長にお会いしたり、、、

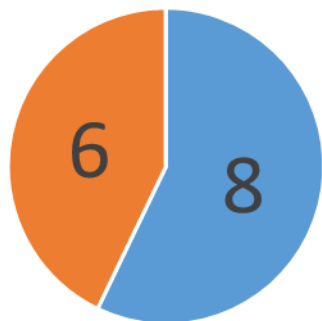


最後に振り返り会



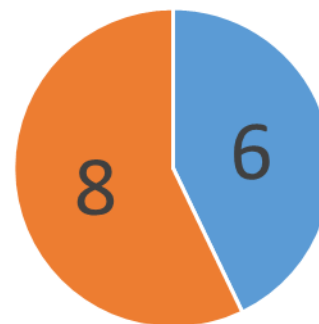
【自転車ツアーの結果】

満足度



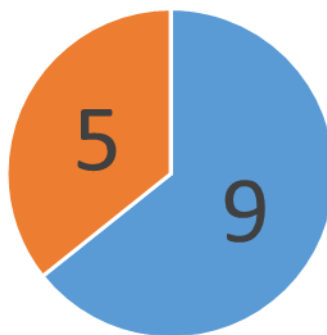
- とても満足
- まあまあ満足
- どちらでもない
- あまり満足でない
- 満足でない

勉強になったか



- とても勉強になった
- まあまあ
- どちらでもない
- あまりならなかった
- 勉強にならなかった

楽しかったか



- とても楽しかった
- まあまあ
- どちらでもない
- あまり楽しくなかった
- 楽しくなかった

【自転車ツアーで出た意見】

- このようなツアーを継続的に実施してほしい
- 公民館の3.5mの高さにも水がきたことが印象に残った
- 高台が少ない。
- ハザードはマップを作成するにも情報が不足している。
- サイクリングツアーは自然との一体感が出て、改めて水害箇所について考えさせられた。
- コースの下見をもっとしっかりしておいてほしかった。

など

【自転車ツアーから学んだ事】

- 行政もそうだが、個人でも対策をしないと。
- 記念碑などがあることをしらなかったため、勉強になった。
- 水害の記録は後世に伝え、忘れないことが大事。
- 公民館のお祭りに初めて参加したが、公共性が高く驚いた。

など

【報道結果】

2018/11/22

自転車で巡る 水害の痕跡...常総:地域:読売新聞 (YOMIURI ONLINE)

メニュー

YOMIURI ONLINE

ご購入案内
印刷版のためし

ホーム ニュース 深読み 発言小町 医療 読売新聞から

キーワードを入力

ウェブ検索

サイト内

地域

おすすめ

Recommended by Outbrain | ▶

東みよしに新電力会社 来年2月事業開始 (2018年11月20日)

ペンギン総選挙「まる」V (2018年11月21日)

働く女性8割「管理職なりたくない」...銀行調査 (2018年11月22日)

「江戸の醤油」仕込み中...餃子 (2018年11月21日)

[PR] シワ対策に新しいメイクアップが誕生 新感覚の美肌フィルム
ジェルとは? (北の保険工房)

[PR] 日本有数のベンチャーキャピタリストと、ベンチャー経営者
が語り合った (グロービス on Business Insider Japan)

トップ 北海道発 中部発 北陸発 関西発 九州発

地域 茨城 ニュース

自転車で巡る 水害の痕跡...常総

2018年11月18日

ツイート

G+

✪



鬼怒川の堤防で堤固を見学する参加者ら

2015年の関東・東北豪雨で水害に見舞われた常総市を巡る「小貝川—鬼怒川自転車ツアー」が17日に行われた。水害の記憶を語り継ぐ市民団体「見てみようよ！常総市の会」の主催。市内外から大学生や会社員、公務員ら約20人が参加し、自転車で災害の痕跡を見て回った。

一行は関東鉄道常総線水海道駅前に集まり、同会が用意した自転車などに乗って出発。小貝川サイクリングロードを走り、浸水被害を受けて建て替えられた大生公民館や鬼怒川の堤防などに立ち寄り、被災者から大雨によって河川水が市街地へ流出した状況について聞いた。さいたま市の大学1年小林れんさん(18)は「被災した人の話を聞き、すごく勉強になった」と話していた。

常総の川と暮らし 銀輪で巡る



堤防から鬼怒川を見渡す自転車ツアーの参加者ら＝常総市内

市民団体の初ツアーに大学生ら

市内外から集まった18人の参加者が、関東鉄道水海道駅前を出発。同会が調達した貸自転車などに乗って、まず小貝川の堤防を北上した。秋晴れの下、堤防道路にはサイクリングを楽しむ地元の人も多く、さいたま市から参加した立正大1年の小林れんさん(18)は「水害があったとは信じられないほど、のどかで美

水害、水運…記憶伝えたい

常総市の鬼怒川と小貝川の堤防などを白転車で走って、川にはさまれた市の歴史や地理を体感するツアーが17日に開催された。3年前に起きた常総水害の記憶を伝える活動をしている市民団体「見てみようよ!常総市の会」(石川理司代表)が、一般から参加者を募って初めて開催した。

「いい」と話した。堤防を降り、水害で浸水したため新築された同市平町の大生公民館へ。水害後初めてとなる「公民館まつり」が開催中で、参加者は地元の人たちが出品した絵画や書などを楽しんだ。会場を訪れていた神達岳志市長から「ぜひ常総の良さも見つけてください」とあいさつを受けた。

鬼怒川にかかる豊水橋近くに出ると、周辺に残る古い倉庫を見て回った。ツアー案内役を務めた同会アドバイザーの森良さんが「かつて鬼怒川の水運で栄えたころの名残です」と、川が暮らしを支えていた側面も説明した。

このあと、新八間堀川が鬼怒川に注ぐ水門周辺の堤防を走り、同市水海道橋本町の町民会館で感想を話し合った。水害で自宅が2層近く浸水した同町の男性会社員(41)は「堤防から見ると、市内に高

い所がほとんどないことが改めてよく分かった」とかみしめるように話した。森さんは「市内には過去の水害を伝える碑が多い。3年前の水害も絶やさず伝えることが大切。こうしたツアーを続けていきたい」と話していた。

(三嶋伸二)

朝日新聞 DIGITAL

Language 新規登録 ログイン メニュー

トップニュース スポーツ カルチャー 特集・連載 オピニオン ライフ 朝夕刊紙面・be MY朝日

新着 天声人語 社会 政治 経済・マネー 国際 テック&サイエンス 環境・エネルギー 地域 朝日スペシャル 写真・動画

朝日新聞デジタル > 記事

鉄道 茨城 新聞考案申し込み デジタル申し込み

連載：各駅停話



(各駅停話) 北水海道 (きたみつかいどう) 駅 泥かきから始まった

有料記事

三嶋 一平 2019年1月23日14時40分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷

25 133 0

前回：中要駅 見沼運転土、春を待つ

連載一覧 次回：水海道 (みつかいどう) 駅 「…



駅前広場の花壇に掲げられた深き水位の看板を前に立つ染谷みどりさん（左）と横田純洋さん＝茨城県常総市水海道森下町

鬼怒川が決壊し、茨城県 常総市の3分の1が水没した「関東・東北豪雨」。発生したのは2015年9月だ。駅周辺は胸まで水が押し寄せた。近所の染谷（そめや）みどりさん（62）も、気づいた時には家の前に水があふれ、外に出られなかった。泥かきの日々が始まった。

「各駅停話」一覧 →

"テツ"の広場 →

1カ月ほどたった頃、まだ泥だらけの駅前広場を見て、染谷さんは「掃除しよう」と思った。水害前から仲間と広場の花壇を世話してきた。自宅は全く片付いていなかったが、仲間へ声をかけると集まってくれた。

きれいになった広場を見て、駅…

【2月17日（日）

復興まちづくりを考える街歩きツアー】

〈視点〉

・ 「“水害の記憶”をたどるツアー」から「（現在も進行している）復興の歩みをたどり、考えるツアー」へ



- ・ 暗い記憶だけでなく、“前を向くことができる”ツアーコンセプトへ。“復興”を見つめる中で、水害の教訓の検証も行う。
- ・ 水害後に移り住んだ／開業した 店なども訪問、新たなまちづくりを考えるベースとして水害の事実もきちんと見つめつつ、新住民の希望も共有する。
- ・ 「街の記憶」と「ニュース」の発見＝街のおもしろさの参加者による発見 をコンセプトに参加魅力を高めたツアーに。³⁴

【2月17日（日） 復興まちづくり 考える街歩きツ アー】

常総・復興まちづくりを考えるまち歩きツアー① <水海道再発見編>

2/17 水運で栄え 46 本の路地で発展 →これからは？

19.10水害から3年余、常総市も復興への道を歩き始めました。わたしたちは18年10月以來これまで6回にわたって被災者の話を聞き、水運ステッカーを貼って歩く「水運スタディツアー」を行ってきました。これからは「水害に学ぶ」だけでなく常総市の魅力を再発見し、それを活かしたまちづくりを考えるツアーを行っていきます。

まち歩きツアー：水海道の発展の歴史を学びこれからのまちづくりを考える



水海道は奥総川—利根川—江戸川—江戸(東京)の水運で栄えた河で、常総商人の進取の気風で知られていました。産地帯が背景にあることからコメや大豆を原料とした醸造業も発達し、せんべい、酒、味噌、醤油を江戸に運んでいました。

今回のツアーでは「船長の野郎」・「まちの野郎」お二人の話を聞き、まちを歩いて復興まちづくりの材料を探し、それを活かしたまちづくりを考えます。

- まち歩きコース
- 10:00 水海道駅 集合
 - 15 まち歩きスタート
 - 20 二水駅 (旧水海道町役場)
 - 35 船岡寺
 - 45 長田屋呉服店(お話①)
 - 11:15 富山倉庫(水運の本道倉庫)
 - 20 平安堂和店(お話②)
 - 12:00 飯塚亭(昼食)
 - 13:00 復興まちづくりワークショップ
ツアーのまとめ
 - 15:00 解散 (各自買い物ツアー)
 - 参加費：600円 (保険料等)

次回予告
まち歩きツアー②<石下編>
3/31 豊田城周辺(お花見)

参加希望の方は2/15までにご連絡をお願いします。
<連絡先>
TEL: 090-1838-9444(渋谷)
Email: mtnyjouso@gmail.com

見てみようよ！常総市の会

【課外活動：中越メモリアル回廊視察＝再訪＝】

2018年9月、会として中越メモリアル回廊に二度目の視察を行いました（初参加者も含）。

＝現地での振り返りの会（学んだことからの今後の会の方針検討）も実施＝



【課外活動：せんだい3.11メモリアル交流館視察＝有志＝】

2018年12月 メンバーが視察。将来の常総市の拠点施設の参考に。



【年間活動を振り返って＝反省・教訓＝】

1. 人を集めるツアーの継続には、常に“魅力の向上”が必要
⇒水害の記憶のみに的を絞るときつくなる。
地域の方は“楽しさ”（前を見る）明るさ”を求めている
⇒確立したツアーの形式にこだわらず変化を試していく
2. 「水害の事実」に力点を置く時期、の後は「復興の歩み」
にフォーカスして“希望”を共有していく
3. 「水害の被災記憶」だけでなく「ボランティアの顕彰」を力点にしていく。
⇒被災記憶を振り返ることはつらいものだが、ボランティアの活躍については地元皆感謝している⇒「ボラの顕彰」をテーマに打ち出せば、思い出を語ってくれる人は大勢いそう。（ボラへの感謝は皆さん口にしたい。共有したい。）

「ボランティアの顕彰」をカ点に



語り部の方の宝物は、水害後に来てくれた親子のボランティアの
小4の女子が忘れていった子供用軍手。
連絡先を聞けず、今でも悔やんでおられた。

【今後の課題】

- 常総市地元参加者の巻き込み
- 中核的参加メンバーはまだまだ不足
- 恒常的資金不足と継続モデルの未確立
- ツアー魅力増大 = 参加者拡大

【次年度の展開】

- ・ 当地の地形や水害の歴史、川との付き合い方の知恵、など、「川とくらしの文化」に関する連続セミナー実施
- ・ “復興”や“ボランティア”“街の魅力”“川とくらしの文化”に光を当てたイベント／ツアー実施
- ・ 中長期に向けた計画づくり

2箇年度にわたり、
ご支援いただき、
誠に
ありがとうございました
た♪